

称えても称えても  
また称えても  
弥陀のよび声  
なむあみだぶつ  
妙好人  
浅原才市翁



No. 85

2011年(平成23年)

11月1日

発行

浄土真宗本願寺派

和歌山教区日高組

責任者

鈴木悟峰



## 日高組キッズ・サンガ(子どもの集い)

「舍利弗、もし善男子・善女人ありて、阿彌陀仏を説くを聞きて、名号を執持すること、もしは一日、もしは二日、もしは三日、もしは四日、もしは五日、もしは六日、もしは七日、一心にして乱れざれば」

よく効く薬があります。

ある人は、よく効くのでこれ一つでいいと思います。

ある人は、よく効く薬なら、これにほかのものを加えれば、もつと効くのではないかと思います。加える人は、自力の人です。薬だと副作用があり、薬が毒になってしまいます。この『阿彌陀経』を自力の人が読みますと、アミダさまのみ教えを聞くために、いつもいつも励まなくてはならない。

一日から七日七夜と、生涯に南無阿彌陀仏を称えて臨終の時にアミダさまがお迎えに来るととなります。

親鸞さまは、あらゆる人に対してアミダさまが必ず助けるという南無阿彌陀仏を聞き、その身そのままで仏さまを信じ称えるのが南無阿彌陀仏と説かれています。七日七夜とあるが、時間の長短を言うのではなく南無阿彌陀仏の一声でもよく、その回数や深さを問うものではない。そういうことにとらわれず、救われるという喜びをいたたくものです。一心不亂とは、私の心を不亂にするのではなく、アミダさまの救うという一心をそのままにいたたくことを言うのです。そして、平生からご信心をいただいておりますので、臨終を待つことはないのです。お迎えを待つことはないのです。

ここまで話したをおしゃか様は証明されているのです。ここまでお話しをしてきた、人々の往生のことです。お坊さんが、お説教でお淨土の話をしたときに、「淨土なんて信じられるか、誰か見てきたのか」という人がいます。そう言うことに対しても、おしゃか様は、あらゆる人が生命を終えた後に往くところがお淨土だよと言つてくれています。

おしゃか様というこの上もない人がお淨土のあることを証言してくれているのです。

**阿彌陀經に聞く**



## 紫水会大遠忌 法要に参拝して

九月十六日、残暑まだ厳しい京都本願寺にて宗祖七百五十回大遠忌法要に内陣余間で参拝するご縁をいたしました。

紫水会とは、前門さま勝如上人の雅号(紫水)を冠に、前門さまをお慕いす

宗門の僧俗ゴルフ愛好者らが集まる会です。  
前門さまが亡くなられてしばらくは解散状態でしたが、お孫さんである大谷光淳新門さまを名譽総裁に、二〇〇七年に新生紫水会が始まりました。

全国大会は今回で五回目となりますが、今年の紫水会「聞法の集い・全国大会」は東日本大震災の発生に伴い中止となり、このたびの親鸞聖人七百五十回大遠忌のご勝縁にあわせ、法要の集い・全国大会

参拝と聞法の集いのみが開催され、全国から約五十名の会員の出席され、お言葉をいただきました。

「あさの法要で小さなお子さん連れの家族が参拝されており、「門主さまのお言葉をいただいているときに、その子の声

が聞こえました。新門さまを囲んで、楽しいひとときを過ごすことができた一日でした。

(楠原)



## 日高組 キッズ・サンガ

仏壇には様々な種類や形式があります。様式の上からは大別して、金仏壇(漆塗りで金箔で装飾されたもの)、唐木仏壇(紫檀や黒檀などの木地を生かしたもの)、新規仏壇(新しいデザインで多様な素材のもの)があります。

また、宗派によつて形式の差があり、本願寺(西に本願寺)と大谷派(東に本願寺)との別があります。中央のご本尊に向かつて右には蓮如上人の御影を掛けます。

この本尊、脇掛の名号や絵像は本山より下付していただくのが本来の姿です。仏壇の前卓には平常は、中央に香炉、右にろうそく立、左に花瓶の三具足を配置します。年忌等の特別な法要には一对の五具足を用いて打敷を掛け、お供物を供えます。

なお、新しく「本尊を迎えた時は「入仏法要」、引越しの場合はその一本が正面(手前)にくるように置き、耳のあるものは正しく左右に向くように置きます。

法要参拝後、「聞法の集い」の会場である宗務所三階大會議室では、八日間の法要も無事終了され、お言葉をいただきました。

「あさの法要で小さなお子さん連れの家族が参拝されており、「門主さまのお言葉をいただいているときに、その子の声

が堂内を遮るように耳に入つたが、お言葉が終わると、周りの人が話を聞きながら、お言葉が終わると、周りの人が話を聞きながら、お同行のお念仏の声とともに

だぶなんなんだぶ」とお念佛をしておられたのが聞こえました。新門さまを囲んで、楽しいひとときを過ごすことができた一日でした。

最初に「仮の子」としての誓いを述べた後、ゲームや紙芝居・読み聞かせ、工作などを行つた。また、昼食は、寺族婦人会員の手作りカレーライスを美味しく戴きました。食後の休憩時には、スリーアボールすくいなどがわり楽しく一時を過ごしました。夏休みの思い出となつたことでしょう。

# 日高組寺院めぐり

教専寺（由良町阿戸）  
第十九代住職 永原 智行



葦浦若太夫が、文明年間に蓮如上人より名号をいただき、永正十一年（一五五一四）得度して西願となり、実如上人より方便法身尊形をうけたのに始まる。先の本堂は、元禄十二年（一六九九）より着工し、同十五年（一七〇二）九月に完成した。同十二年に「小袖の喚鐘」と呼ばれる喚鐘も完成している。

七世淨照院釋聞哲は「西海」と号して、漢方医学や文学や書に秀でていた。由良の風光明媚を聞哲が漢詩で読み、息子八世智定は「左傳」と号し和歌を詠んだ「安都十八景」

が残っている。

文久四年（元治元年一八六四）一月六日と七日に、十四代將軍徳川家茂公が、軍艦翔鶴丸で大坂に向かう途中当寺を本陣に休息された。その際、「走る金屏風」の話があり、病弱の將軍は朝鮮人参を入れたお風呂にはいられた。

十八世智徳の時、平成六年（一九九四）一月二十七日にご巡教でご門主さまが教専寺に来られた。

十九世智行の時、平成十八年（一〇〇六）四月三十日に、門信徒の淨財を結集して二年にわたる工事の末に、教専寺本堂鐘楼改築落成慶讃法要・親鸞聖人七五〇回大遠忌法要等を執り行つた。

## 読者の声

### ☆行事報告

### 日高組通信

#### ・総代会前期研修会

二十三年度総代会前期研修会（第四回組内寺院めぐり）が七月十六日（土）、各寺院から総代二十八名が参加し開催されました。

★心のよりどころとして日課になつたお念佛。お正信偈を通して、亡き主人と会話をしています。

★親鸞聖人の「世のなか安穏なれ」のお言葉は、現代の混沌たる時代に生きる私達に「ひと」としてのあり方、生き方をご教示して下さっています。

今回訪問させていただいた寺院は、信行寺・覚性寺・即生寺でした。研修会後に懇親会が開催され、各寺院の現状など懇談しつゝ親睦をはかつた。

#### ・日高組「子どもの集い」

#### （キッズ・サンガ）

日高組第五回「子どもの集い」が八月二十日（土）日高町志賀即生寺に於いて、組内寺院から児童二十四名が参加し開催された。開催に当たり各教化団体にご協力を頂き有難う御座いました。（関連記事（三面）参照）

#### ☆行事予定

#### ・日高組「真宗法座」

日高組第十七回「真宗法座」を次の通り開催致します。

日時：十二月十八日（日）

場所：蓮専寺（由良町里）

講師：豊島学由

どなたでも参加できます。お誘い合わせてご参加下さい。

#### ・日高組総代会

#### （後期研修会）

総代会二十三年度後期研修会を一月中に開催致します。詳細につきましては、後日ご案内致します。

教専寺子供会（日曜学校）  
土曜日五時から教専寺子供会の活動をしています。

#### 現代の活動

教専寺子供会（日曜学校）  
土曜日五時から教専寺子供会の活動をしています。

教専寺子供会（日曜学校）  
土曜日五時から教専寺子供会の活動をしています。

#### 教専寺子供会

「正信偈」「歎異抄」「御文章」「阿弥陀経」の解説とお寺の案内を大学卒業以来続けています。

永原智行 平成十年五月二十日住職就任

本願寺派布教師 本願寺派輔教

#### 教専寺子供会